

悲しむ者は幸いです

マタイの福音書5章1-12節

はじめに

イエス様は山の上で、弟子たちと群衆に対して「幸せ」について話されました。イエス様のもとに集まって来た群衆というのは、様々な病や痛みに苦しむ人々でした。イエス様は彼らの病や痛みを癒して、「幸せ」について話されたのです。

イエス様は、「どうすれば幸せになれるか」という話をされたというよりも、「今あなたが幸せであることに気付いてほしい」という話をされました。つまりイエス様は、幸せになる方法を教えようとされたのではなく、現に今、あなたが幸せであるという事実に気付かせようとされたのです。

イエス様のもとに集まって来た群衆は、様々な病や痛みに苦しむ人たちでした。彼らは多くの悲しみを経験した人たちでした。イエス様は彼らに、「**悲しむ者は幸いです**」と言われました。私たちは、悲しみは人を不幸にすると考えます。しかしいエス様は、悲しみは人を幸せにする、悲しみの中でも人は幸せに生きることができると言われるのです。

私たちは、悲しみの要因が取り去られれば幸せになれると言えます。状況が変われば、事態が好転すれば幸せになれると言えます。しかしいエス様は、悲しみこそが人を幸せにする、悲しみを抱えたまま人は幸せになれると言われるのです。

1. 私たちの悲しみ

私たちの人生に悲しみをもたらすものとは何でしょうか？私たちの人生を悩ます問題は、大きく分けて五つあると思います。①健康。私たちは病気になる時に悩みます。大きな病気や障がいを持つ時、私たちは悲します。②家族。私たちは家族の問題で悩みます。夫婦の問題、子育て、親との関係などで悩みます。そこに問題が生じると、私たちに大きな悲しみをもたらします。③経済。私たちは経済的な問題で悩みます。家のローン、子どもの進学費用、老後の生活など経済的な心配は、私たちを悩ませます。経済的な目途が立たない時、私たちは大きな不安を抱えます。④人間関係。職場や友人との人間関係でトラブルが起こると、私たちは悩みます。信頼関係が崩れ、憎しみや怒りを抱える時、私たちは大きなストレスを抱えます。⑤性格。私たちは自分の性格に悩みます。人と比べて自信を無くし、自分を受け入れられない時、私たちは悩みます。この先どのように生きればよいのかと途方にされます。

私たちの人生には、悩みは尽きないものです。そしてそれらの悩みは、時に私たちに悲しみをもたらします。

ある人は、人は何かを失った時に悲しみが生まれると言います。健康を失った、家族を失った、信頼関係を失った、仕事を失った、財産を失った、夢を失った、自信を失った、そういった喪失感こそ、私たちに悲しみをもたらすのだと言います。

聖書は、人の悲しみの根本的な原因は、神様との関係を失ったことにあると言います。人類最初の人であるアダムとエバは、神様に従わずに禁断の木の実を食べてしまいました。その結果、全人類は神様との関係を失ったのです。そうして私たち人間は、神様に従わない罪の性質を持つようになり、死という現実が私たちを支配し、私たち人間は互いに争い合うようになったのです。そして労働も家庭も、私たちに苦しみをもたらし、動物や自然も私たちに危害を加えるようになったのです。

神様との関係の喪失、それが私たち人間に、様々な悲しみをもたらした根本的な原因だと聖書は言うのです。

2. イエスの悲しみ

イエス様は神ご自身です。イエス様は、私たちの悲しみの只中に来られました。天から私たちの悲しみをただ眺めているのではなく、人となって私たちの悲しみと同じように経験されました。旧約聖書のイザヤ書には、イエス様についてこのように言われています。「**彼は蔑まれ、人々から避けられ、悲しみの人で、病を知っていた**」(イザヤ 53:3)。

イエス様は、「悲しみの人」でした。イエス様は多くの悲しみを経験されました。人々から憎まれ、妬まれ、十字架に架けられました。イエス様は、人に憎まれ、殺意まで抱かれ、死の恐怖と悲しみを経験されました。イエス様は、愛する人を失う経験もされました。ラザロという友人の死を前にした時、イエス様は涙を流されました。イエス様は、親しい人に裏切られる経験もされました。イエス様の弟子たちは、イエス様を捨てて逃げてしまったのです。イエス様は、神様に捨てられるという経験もされました。イエス様の十字架は、私たちの償いのためでした。イエス様は私たちの罪を償って、神様に捨てられたのです。イエス様は十字架上でこのように叫ばれました。「**わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか**」(マタイ 27:46)。イエス様の生涯は、三十数年の短い生涯でした。イエス様には罪の性質はありませんでした。しかし私たち以上に多くの悲しみを経験し、私たちの悲しみを知り、悲しみの人となられたのです。

そのイエス様が語られたのが、「悲しむ者は幸いです」という言葉です。この言葉は、悲しみを知らない人の言葉ではありません。私たち以上に多くの悲しみを経験された方の言葉です。イエス様は、悲しみは人を幸せにする、悲しみの中でも人は幸せに生きることができる、そう言われるのであります。

3. 神の慰め

なぜ悲しみは人を幸せにするのでしょうか、なぜ悲しみの中でも人は幸せに生きること

ができるのでしょうか。イエス様によれば、それは「慰められるから」です。悲しみを経験すればするほど、慰めをも同じように経験するのです。人は、慰めを経験するからこそ、悲しみの中でも幸せに生きることができます。悲しんだ分だけ慰めも経験するので、人は幸せに生きることができます。

では私たちは、悲しみの中で誰からの慰めを経験するのでしょうか。それは神様です。聖書によれば、神様はこの世界を造られ、私たち人間を造られた方です。そして目には見えませんが、今も生きておられ、世界全体と私たちひとりひとりの人生を導いておられる方です。そして私たちを愛してくださる方です。その神様が、悲しみの中で私たちを慰めてくださる、悲しみの中で神様の慰めを経験するからこそ、悲しみの中でも人は幸せに生きることができる、悲しみは人を幸せにすると言えるのです。

新約聖書にこういう言葉があります。「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。私たちが苦しみにあるとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます」(IIコリント 1:4-6)。

この御言葉が私たちに教えていることは、①神様は、どんな悲しみの時にも、私たちを慰めてくださる、②悲しみを経験すればするほど、神様の慰めをも経験するようになる、③神様の慰めを経験した人は、人を慰めることができるようになる、ということです。

悲しみは、私たちが神様の慰めを経験する機会をもたらします。悲しみは私たちを、人を慰める人へと変えてくれます。悲しみは、神様の慰めを経験する機会であり、私たちを慰めの人へ変えてくれる機会です。私たちの悲しみは、誰かを慰めるために与えられているのです。

「慰める」とは、ギリシャ語の「パラカレオー」という言葉で、「傍らから呼ぶ」「隣で声をかける」という意味です。「慰める」とは、共にいて優しい言葉をかけるものです。神様は、悲しみの中で私たちと共にいてくださり、聖書の言葉を通して優しく語りかけてくださるのです。私たちも人を慰める時は、何よりもまずその人と共にいることが大切です。そして優しい言葉をかけるのです。

おわりに

私たち人間の悲しみの根本的な原因は、神様との関係を失ったことです。私たちは、神様との関係を回復しなければなりません。神様との関係を回復した人こそ、神様の慰めを経験することができるのです。

イエス様は、神様と私たちとの関係を回復するために人となられました。イエス様は、私たちと同じように多くの悲しみを経験されました。そして、私たちが悲しみの中でも幸

せに生きることができるよう、悲しみの中で神様の慰めを経験できるようにして下さいました。

神様の慰めを経験するためには、神様との関係を回復しなければなりません。神様との関係を回復するためには、悲しみの人であるイエス様を信じなければなりません。イエス様を悲しみからの救い主として信頼して、イエス様のもとに悲しみの重荷を降ろし、イエス様に委ねなければなりません。神御自身であり、多くの悲しみを経験されたイエス様に、すべての重荷を委ねていく時、私たちの心に神様の慰めを経験していくのです。神様がいつも共にいてくださり、神様の優しい語りかけを経験していくのです。そして、私たちも悲しみの人であると同時に、慰めの人へと変えられていくのです。

聖書はこう言います。「**神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から、涙をごとごとくぬぐい取ってくださる**」(黙示録 21:3-4)。